

■もみじの森小学校の実践

(1) 研究内容

- ①男女平等教育副読本『心のハーモニー』を活用した授業実践研究
- ②『からだ・こころ・いのちの学習』に位置付けた『異性の友だち』の授業実践
- ③人権・男女平等に関わる講演会～思いやりの心をもみじの森に広げよう～

(2) 学習活動を通して育てたい力

- ・男女が互いに一人の人間として相手を尊重し、認め合い、力を合わせて生きることができる実践的な態度
- ・男女が共に社会のあらゆる分野において参画し、貢献しようとする意識

(3) 実践の内容

【実践①】「道徳の授業実践研究『男女の協力』（6年）」について

○ねらい

- ・男女仲よく協力し合うことの大切さに気付く。
- ・これまでの自分の友達関係を振り返り、男女が互いに協力し合って生活しようとする気持ちをもつ。

○学習内容

- ・男女平等教育副読本『心のハーモニー』を使い、「女だから」「男だから」と決めつけず、一人一人のよさに目を向け、男子と女子の友情について考えを深める学習。



【実践②】「『からだ・こころ・いのちの学習』授業実践『異性の友だち』（5年）」について

○ねらい

- ・相手の立場を尊重しながら、異性と接していくことの大切さを理解する。
- ・男女がお互いを尊重しながら生活していくことのできる態度を身に付ける。

○学習内容

- ・異性の友達についての事前アンケートをもとに、同性と異性の友達について考える学習。男女が互いを尊重し、共に生活していくことの大切さを学ぶ。



【実践③】「講演会～思いやりの心をもみじの森に広げよう～」について

○ねらい

- ・思いやりの心を持ち、互いを尊重し合うことの大切さを理解する。

○学習内容

- ・講演を通して、男女の区別なく、互いが思いやりの心を持ちながら、よりよい社会をつくりあげていくことの大切さを学んだ。



(4) 成果と課題

① 成果

一連の活動を通して、男女が「共に生きる」社会は「個性と能力を発揮して、自分らしい生き方をしていくこと」だという点について、高学年を中心に考えを深めることができた。授業実践においては、本校の道徳年間指導計画や『からだ・こころ・いのちの学習』年間指導計画に位置付け、次年度への取組にもつなげることができた。

臨床心理学研究の北海道教育大学札幌校准教授平野直己氏を招いての講演会は、子どもにとっても「実際の社会では」という視点を持ちながら「互いを思いやること」について学ぶことができ、大変効果的であった。また同日に教職員への講演会も行い、これからの共生社会とはどうあるべきかを研修することができた。

② 課題

実践の場が高学年中心になっていたが、低学年への実践があれば全校でさらに深めていくことができたと思われる。今年度の実践をもとに、学年の系統を意識しながら年間指導計画を見直し、次年度につなげていきたいと考えている。